

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600750		
法人名	社会福祉法人 豊後大野市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	大分県豊後大野市緒方町馬背畑1875番地		
自己評価作成日	平成25年11月23日	評価結果市町村受理日	平成26年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4472600750-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4472600750-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212
訪問調査日	平成25年12月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境の中で散歩を楽しんだり、デイサービスに来る人たちと交流を持ちたりと、のんびりとゆっくり楽しく生活できるように支援しています。敷地内の畑には季節の花や野菜を入居者と一緒で植えたり、草取り作業、収穫した野菜は料理に使い、入居者と職員が同じ食卓を囲み食事を楽しんでいます。運営推進会議や、地元消防団・自治委員と避難訓練などをとおして、地域の人達と関係づくりに努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間に位置する1ユニット6名のホームです。利用者個々の特性や個性を大切に、細やかな支援を行う中で、その人らしさを視念に、ケアに全職員が工夫し取り組んでいます。研修、勉強会を通し更に、サービスの質の向上、職員のスキルアップに真摯に取り組んでいます。家族会、家族アンケートの意見、要望を積極的に聞き取り、一人ひとりの思いに適した暮らしが出来るよう、全職員で日々話し合いながら支援をしています。また、地域交流において今までは受け身での交流が多かったが、運営推進会議を通じて積極的に地域の方に認知症啓発活動や技術講習等事業所が持つ力を発信して行くことを目標に掲げており、今後も職員間で検討され一層の熱意と工夫を期待します。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者一人一人の普通の生活や権利を守ります」「人が見ている時も見ていない時もいつも変わらない対応」を基本理念とし、業務前は玄関に飾っている理念を確認し実践へとつなげている。	日々の実践に繋がるように、理念及び運営方針を玄関に掲示するとともに、会議等でその意味を確認しながら共有をし、ケアに取り組んでいます。	職員は、理念を基にケアの実践に取り組んでいますが、全職員で今年度の行動指針を掲げ、その実践に毎月の目標を立てることにより、更にサービスの質の向上に繋げることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のサロンや保育園児が施設を訪問、祭り等の行事は積極的に参加し、地域の人々との交流ができるように努めている。	利用者が、地域の一員として交流ができるよう多くの機会を作り、地域サロンに出かけたり、祭り、美化活動に参加しています。隣接する広場では地域の方と一緒にグランドゴルフをする姿も見られ、地域交流に力を入れ、生活基盤を確立しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人と交流があった時、広報誌を利用して悩みや相談を受けつけている。また、地域に出向き、認知症の話や相談ができる機会を持つため、自治委員さんへ現在働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では年間の議題を決め、会議で出された意見については職員間で反省会を行い、次回の会議に実践状況を報告できるようにしている。	運営推進会議は事業所のホームで行うため、委員にはホーム環境や利用者の表情、生活状況が確認でき率直な意見交換となっています。また、取り上げられた検討項目等は職員間で話し合わせサービス向上に反映されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では現状報告をし、助言やアドバイスを受けている。何か問題が生じた際は、相談やアドバイスを求めている。	運営推進会議案内や介護保険申請、事業所の実情等の状況を発信し、市の窓口にも出向き、随時相談をし問題解決等の指導を受けています。行政各機関との協力関係を築くよう努力されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず、見守りを重視し、職員間で注意を払い身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束、虐待防止等の研修を行う中で、心理的、身体的な事例を全員で検討しており、拘束、虐待等正しく認識しています。一人ひとりの自尊心や人権を守ることを優先に考えたケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自らの行為が虐待になっていないか意識しながら業務にあたっている。職員間でも入居者の接し方を互いに確認しあい、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解は出来ているが、積極的に活用するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族の不安や疑問点を聞き、事業所のケアに関する考え方や取り組みを、時間をかけて丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や面会時に要望を聞く機会を設けたり、家族会・広報誌についてのアンケートを実施し、運営に反映させられるよう努めている。家族に広報誌を送る際一緒に日常の様子がわかる写真を送っている。	職員は、利用者との会話、言動、表情等、日々の関わりの中で要望を引き出しています。家族は、運営推進会議、年1回の家族会、家族アンケートを通し、要望の表出の場とし、その中から今年は家族も参加し、温泉旅行を楽しむ等、利用者、家族との関係が築かれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理者が、職員の意見を聞く機会を設け、協議を行いながら入居者・職員にとってより良い環境を整えて行けるよう反映させている。	毎月の職員会議で困難事例を検討したり、業務改善策を話し合い意見はケアの向上に反映させています。管理者もケアに入り、職員とのコミュニケーションを図ったり、相談にのっています。	職員の意見を運営に反映させるような年間目標に掲げ取り組んでいます。研修等では職員がテーマを決め積極的に発表する機会を設けることにより、ケアの意識の向上や質の確保に繋げるよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営状況に関しては、毎月事業報告を行い会議録等で現状報告を行い把握してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てて職員のスキルアップに役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合った職員と交流する機会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設見学をしていただき、生活の様子を見ることで入所の不安感を減らすよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をつゆくり聞き、不安なこと・要望等については話し合いを進めていく中で取り除き、安心感を得られるよう家族との関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に自宅を訪問し、生活状況・本人および家族が求めているものを把握して、他のサービス利用も含めて必要な支援が何か話し合っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	草取り・掃除・調理等、利用者と職員とが一緒に行う場面をつくり和やかな生活環境を整えるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話をかけてもらったり、病院受診の際は家族対応にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	サロンへ出向くだけでなく、施設に来ていただき馴染みの人と交流を図り、関係継続に努めている。	利用者の昔馴染みの人や場との関係を職員が把握し、利用者の希望に応じた取り組みが行われています。馴染みの美容院の利用やグランドゴルフ仲間との会話、地域行事の参加を通じて、これまでの関係性の継続を支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活で行う掃除、調理等の活動を通して利用者同士の交流を図れるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族と連絡を取り合い、退去後の状況や相談等を随時受け付けて、サービス終了後も関係継続を計っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から利用者の思いを把握し、ケアに努めている。家族についてはアンケートを実施している。	利用者の日頃の表情、言葉、仕草等様子を観察して、喜び、悲しさ、寂しさ等を汲み取り、思いや意向の把握に努めています。また、家族アンケートを実施する中で家族の意向を参考にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者からアセスメントを取り、職員は随時記入できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の把握、毎日の健康チェックと入浴時の全身確認を行う。現在出来ることを、今後も継続していけるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には電話や面会時に意向を確認している。	利用者、家族、関係者(かかりつけ医)の意見や要望を反映した介護計画を作成するために、月1回のモニタリングで職員の意見、アイデア、観察結果等を話し合っています。また、半年ごとに見直しを行い変更の必要性を検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子等をケース記録に記入し、職員全員での毎月のモニタリングで、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が受診対応できない場合は、職員が付き添いする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出身地サロンとの交流をしている。又、地元消防団や自治委員との避難訓練を10/27日に実施。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望をもとに医療機関への受診や往診などの調整を行っている。かかりつけ医以外の医療機関を受診する際には相談連絡するようにして支援している。	かかりつけ医の選択は、個々の利用者・家族の意向を基に、家族の付き添いの受診が行われています。利用者の心身の状態について、家族と職員間での情報の共有を大切に、日常の支援に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化等に気づいたことがあれば、看護師に報告し適切な医療につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、既往歴や日常生活の様子他情報提供を行う。慣れない環境であるため職員が見舞うようにして不安を和らげるよう努めている。また速やかな治療及び早期退院でき、施設復帰後の生活に馴染めるように適宜担当医・看護師・家族と話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアへの具体的支援方法について職員間で半年に1回前向きに話し合いをしている。	終末期の支援への取り組みについては、現況の施設の体制を入所時に説明しています。看取りへの対応・今後の方針において、職員との協議が図られており、施設の支援の在り方について、指針の策定に努めています。	終末期の看取り支援においては、可能な援助体制、並びに、必要となる仕組みなどにおいても、多方面から論議を図り具体化することが大切です。施設の方針表明に向けた今後の、展望に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急手当て等の対応ができるよう施設内研修を計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団と自治委員さんと地震を想定した避難訓練を実施している。近隣住民と消防訓練に参加する。	毎月の自主避難訓練も実施されており、安全対策に積極的に取り組む体制(担当職員を中心に、迅速な誘導に努める)が伺えます。消防団との連携が図られており、共同での地震避難訓練を行いました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の人に聞かれないような事を声かけする際には、状況に応じて個別に声かけを行ったり、周囲に気付かれないような対応等を行うよう心掛けている。	利用者(人生の先輩)に対する節度のある言葉遣い・プライバシーについて、職員間で理解を深めています。職員同士のチームワークの大切さを把握しており、協調性を活かしながら日々の支援に繋げています。	全職員間の共通理解と周知徹底に努めるにあたり、年間研修計画の策定に期待が持たれます。接遇・プライバシー・個人情報・コンプライアンスなどの項目を含めた内容が、計画に反映されることが大切です。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から希望(食事や外出等について)聞く場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、日常的には家庭で過ごすようにゆったりしたり、時には町内のデイサービスや保育園と交流している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマと日常着は区別し、外出や行事の際も自分で服装を選び、おしゃれをして頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、片付け、畑の野菜の収穫等利用者に声かけをし、一緒に行うようにしている。また、時には利用者に冷蔵庫の中にある食材で献立を考えてもらい料理を作ったりしている。	個々の利用者の食べたい思い・食への関心にも着目する中で、1週間サイクルで献立を作成しており、バランスや嗜好の把握に留意しながら、利用者と共にメニューを試案しています。楽しめる食卓の雰囲気づくりを大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や状態に合わせて食べやすいようにし、残量を記録するようにしている。水分確保できるよう、食前にお茶を出し飲んでもらったり、摂取量が少ない方には声かけや促しをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後歯磨きの声かけを行い、能力に応じて職員が見守りや一部介助を行っている。また、週1回は薬剤につけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック票を活用して、トイレで排泄することを大切にしながら、利用者に合わせた声かけや誘導をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを全職員が共有しており、トイレでの排泄(自立)に向けた支援に取り組んでいます。また、個々の利用者の表情や仕草を職員間で周知する中で、気づきによる言葉かけや対応が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況に応じ薬を使用することもあるが、食材の工夫や運動を働きかけることで自然排便ができるように取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調に気をつけて入浴をしている。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応を工夫し、入浴を支援している。	週3回を基本とし、個々の利用者の心身の状態に合わせた臨機応変な支援が行われています。「湯船につかる心地よさ」を大切に、一人ひとりの安心と、楽しめる入浴支援に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをする等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルをケースに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬変更時は医師や看護師と連携をとりながら服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備(野菜の切込み)片づけなど出来ることを依頼し、感謝の言葉を伝えている。梅干し、干し柿、おやつ作り等利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族会の時には、入居者から希望のあった温泉に家族と一緒にいくことができた。	利用者の思い(花見など)の把握、行事としての楽しみイベントの実施や、グランドゴルフ・散歩、庭(椅子)での外気浴による日常的な気分転換に取り組んでいます。また、医療機関への家族との受診を活用した外出支援も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足に向けて、家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた時は、本人自らが電話や手紙でお礼をするように支援している。入居者に年賀状の宛名書きと一言書いてもらい(家族に)発送した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に季節の花を植えて、玄関・トイレ・ホールに花を飾ったりしている。廊下に季節ごとの写真を貼っている。	利用者の安全と安らぎを考慮しながら、リラックスできる空間づくり(制作作品や写真の掲示)、個々にくつろげる雰囲気づくり(お互いに紙芝居の読み合いなども)に努めています。廊下での運動も支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節に応じてホールには、椅子やソファ、畳、こたつ等を置いて落ち着いてくつろげる空間を作っている。玄関にベンチを置き、一人でほっとできる居場所作りにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、使い慣れた家具を居室に持ち込めるように配慮している。また、本人が望めばラジオやテレビも居室で見られるようにしている。	家族と職員との相互の繋がりを大切にする支援において、家族の協力を得ながら、個々の利用者の思いの把握と、安全で安心できる心地良い暮らしへの配慮、支援に向けた取り組みの姿勢が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADL等変化が生じたときは、本人の不安・混乱材料を取り除き、自立支援につなげている。居室・浴室・トイレなどに、手すりや滑りどめマットを設置し安全に配慮している。		